

(両町) 使用済MOXは「300年以上冷却」等は知らなかった/関電・国に確認する

(高浜町)

- 使用済MOXの処理方法は、今後国の検討が出てから町として検討する
- キャスクの放射能漏れの件は、乾式貯蔵のリスクとして町長に伝える



ふるさとを守る高浜・おおいの会と避難計画を案ずる関西連絡会は、8月23日におおい町・高浜町申入れを行いました。おおい町には、残っていたプルサーマル・使用済燃料の乾式貯蔵の問題で、高浜町には、それらの問題に加え、安定ヨウ素剤の配布と避難計画の問題で申入れを行いました。

ここでは、プルサーマルと使用済燃料の乾式貯蔵の問題について報告します。

おおい町からは総合政策課の寺井課長、他3名、高浜町からは防災安全課の時岡課長、他3名が出席し、市民は、高浜町・おおい町・若狭町・小浜市から5名、兵庫、大阪から6名の計11名が参加しました。

同日の高浜町での安定ヨウ素剤と避難計画についての報告は下記を参照してください。

http://www.jca.apc.org/mihama/bousai/takahama_rep_i190823.pdf

◆両町とも：使用済MOXについて関電・国から説明を受けていない

使用済MOX燃料について「国や関電から説明を受けたことはあるか」との問いに対して、高浜町は、「ここ1、2年はない。国の計画で処理処分について研究開発・検討を続ける、MOX燃料の装荷状況から来年1月頃の定検で使用済MOXが出てくることは把握している」としました。おおい町は、「説明を受けたことは全くない」と答えました。

使用済ウランの場合、乾式貯蔵施設に移すまでにプールで約15年間冷却する必要がありますが、使用済MOXは同等の発熱量になるのに100年以上もかかります。両町とも、「ウランよりは冷却期間が長いのは知っていたが『100年以上』は、今回初めて知った、関電・国に確認する」と答えました。

◆高浜町：使用済MOXについて国の方向を把握し、町として判断する

おおい町：今回貴重な資料を受け取った。今後関電・国に確認し、検証する

6月21日政府交渉で、資源エネルギー庁担当者が、「『冷却に300年以上かかるのは事実』と述べ、さらに使用済MOX燃料の搬出先が決まっていないことを認めました。プルサーマルを受

け入れれば使用済MOXという格段に厄介な核のゴミが町に残り続けることになります。「プルサーマルは受け入れないと早期に表明すべきではないか」と質問しました。

これに対し高浜町は、「独自に調査したところ、ドイツの9基の原発で2000年から使用済MOXを100基の乾式キャスクに入れて保管中であり、使用済MOXでも使用済ウランと同じようにできるという関電提供資料があった」と述べました。市民は、これは政府交渉で国側も持ち出さなかった内容だと指摘し、高浜町も、「ドイツの使用済MOXが高浜のものと一致するかどうかはわからない」としました。

高浜町は、「使用済MOXの中間貯蔵や使用済ウランの乾式貯蔵などは、国が方向を示さないと判断できない。国の出す方向を把握し、町として判断していきたい」と述べました。しかし、国は使用済MOXの処理・処分方法は決まっていないと認めているのだから、プルサーマルはやめるべきです。

市民から、「資源エネルギー庁の核燃料サイクル図から第2再処理工場が消え、使用済MOXのもって行き場がなくなっている。どうするのか、国に確かめて欲しい」と要望しました。そうすると課長は、「そのことは知らなかったと驚き、国に対して物言える状態なので聞いていきたい」、また、「使用済燃料の『県外搬出』がどうなるのか、使用済MOXの行方もどうなるのか、きちんと国に説明を求めないといけない」と述べました。市民は、「行き先が決まらないままプルサーマルを続けると使用済MOXが無制限に溜まってしまう。高浜町長として、プルサーマルは中断すべきと発言すべきではないか」と訴えると、「意見は町長に伝える」と答えました。

おおい町は、「関電からプルサーマルを実施したいとの打診は現時点ではない」と答えました。「プルサーマルの申し入れが来ていない現段階では受け入れないと表明は致しかねる」と繰り返しました。市民が、「『100年以上冷却』は大変ではないか」と聞くと、「使用済MOXの管理がどうなるのか議論の対象になるのではと思う」と述べました。市民から、「資源エネルギー庁担当者が『300年以上冷却が必要』と言ったことも町から質問して確かめて欲しい」と要望しました。ウランと比べて格段に危険なMOXの問題について、専門家のエドウィン・ライマンさんからおおい町にレクチャーしてもらい取り組みをしてきた市民は、「子どもらに負の遺産を残さないで」と訴えました。

「使用済MOXは六ヶ所に持って行けず、第2再処理はなく、もって行き場がなくなっているのに危険な使用済MOXをまだ作り続けるのか」と問うと、課長は、「今回貴重な資料を受け取った。関電・国に確認し、今後町として検証する。大飯原発でのプルサーマルについて判断できるように検討する」と述べました。

**◆高浜町：「県外搬出」に異論はないが、様々な可能性を排除せず現実的解決策を考えている
おおい町：最終的には敷地外搬出というスタンス**

「使用済燃料の原発敷地内乾式貯蔵は受け入れないと表明すべきではないか」との問いに対し、両町とも、「町長は『1つの選択肢』と言っているが、町として具体的に検討しているものではない」と答えました。使用済燃料の県外搬出・敷地外搬出という姿勢も共通でした。

高浜町に対し、「乾式貯蔵が現実的な解決策なのか」と聞くと、「規制委が乾式の方が安全と言っている」と答えました。これに対し市民は、規制委の審査ガイドを示し、「ガイドでは『設計上想定される状態』を超える異常な状態（放射能漏れ）は起こることを認めている。その場合、乾

式貯蔵施設内でキャスクの蓋を開けることはできないため、使用済燃料プール内に運んで蓋を開けて修復することになっている。政府交渉で原発が廃炉になってプールがなくなった場合どうなるのかと聞くと、『廃炉後は想定していない』とのことだった。これではいったん乾式貯蔵を受け入れると、他にもって行き場もなく、高浜町ですずっと放射能が漏れ続ける恐れがある。このようなものを子や孫に残して良いのか」と問いました。課長は、「それは初耳だ。町長に乾式貯蔵のリスクとして伝える」と述べました。市民は、「高浜町として審査ガイドに当たって確認するように」と要請しました。

おおい町に対しては、「最終的には敷地外」というが、一時的には敷地内乾式貯蔵もあり得るのかを問題にしました。高浜町の場合と同様に、「審査ガイドを検討し確認するように」と要請しました。また、「県外・敷地外搬出と言っても、仮にそれが実現できるとしても10年かかるので、それまでにプールは使用済燃料でいっぱいになってしまう」と指摘しました。市民は、「町長の『乾式貯蔵も1つの選択肢』という言い方は、乾式貯蔵について具体的に検討していないのに、すべきではない。この町長発言はやめて下さい」と強く要請しました。

両町とも、市民の指摘を受け止め検討する姿勢を示しました。どう検討したのか問い続けていきましょう。

おおい町宛ての質問・要望書 <http://www.jca.apc.org/mihama/bousai/youbou20190725.pdf>

資料 <http://www.jca.apc.org/mihama/bousai/shiryoku20190725.pdf>

高浜町宛ての質問・要望書 http://www.jca.apc.org/mihama/takahama/takahama_q_yobo190823.pdf

資料 http://www.jca.apc.org/mihama/takahama/takahama_siryoku190823.pdf

2019.9.4

避難計画を案ずる関西連絡会